

# 施肥 アグロリグSC (液体腐植酸資材) の効果確認



## アグロリグSCとは？

アグロリグSCは腐植酸(フミン酸・フルビク酸・ウルビク酸)を多く含む濃縮懸濁液の**バイオスティミュラント資材**です。

腐植物質には、肥料養分の保持や有効化、作物生育促進などの働きがあると考えられており、**生育初期の施用がより効果的**です。

## 使用方法

- 土壤散布もしくは葉面散布
- 250～500倍・100ℓ/10aを1回～複数回に分けて散布
- 低濃度(1,000倍)散布でも根重増加事例があります(右写真)

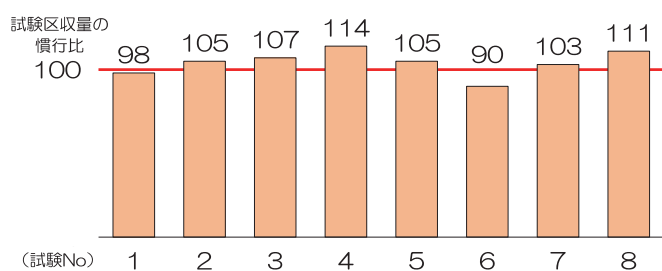


さやいんげん根箱栽培における、播種時土壌施用約50日後(ホクレン農総研)

## 試験設計

試験No.	作物	散布日	倍率	回数	アグロリグSC 散布量合計 (mℓ/10a)	収量調査
1	秋まき小麦	5/3	500	1回	200	製品重
2	春まき小麦	4/29	500	1回	200	
3	大豆	7/31	250	1回	400	
4	小豆	6/13 7/12	400	2回	500	
5	てんさい(移植)	6/14	500	1回	200	生根重
6	てんさい(直播)	5/9	250	1回	400	糖量
7	馬鈴薯	5/16	500	1回	200	規格内 収量
8	馬鈴薯	6/11	250	1回	400	

## 試験結果



- ・一部を除き、**製品重や規格内収量が増加**しました。
- ・生育初期での施用で、**初期生育の向上**がみられる事例も確認されました。

# 防除 除草剤の春期処理による一年生雑草に対する効果確認

## 試験の目的・背景

イネ科雑草に効果が高いトレファノサイド乳剤が春期処理も可能になりました。そこで、秋まき小麦場面における春期処理による一年生雑草への防除効果を確認しました。

## トレファノサイド乳剤について

・有効成分：トリフルラリン 44.5%

【適用表】令和2年3月末現在(生育期処理のみ抜粋)

作物名	適用雑草名	使用量	使用時期	使用上の注意事項(道ガイドより引用)
小麦	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリクサ科、キク科、アブラナ科を除く)	200～ 300mℓ/10a	生育期(雑草発生前) 但し、収穫45日前まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂土及び過湿の透水不良圃場での使用は避ける</li> <li>・<b>越年した雑草は対象としてない</b>ため、播種後に慣行の除草剤を使用する</li> </ul>

## 試験結果

### 1. イネ科雑草に対する効果

【音更町】	処理区	0	対象：スズメノカタビラ 単位：雑草の本数
散布日：4月17日	無処理区	9	
調査日：5月23日			
【本別町】	処理区	15	
散布日：4月12日	無処理区	63	
調査日：5月16日			

### 2. 広葉雑草に対する効果

広葉雑草ではイヌタデ、ツメクサ、シロザでも発生抑制効果が確認されました

- ・トレファノサイド乳剤の生育期処理は**全面土壌散布の登録**です
- ・**秋処理除草剤と組み合わせた防除が有効**です

【防除効果】トレファノサイド乳剤の**春期処理**による、イネ科雑草など**一年生雑草に対する防除効果**が確認されました  
 【普及性】融雪後は天候が安定しない時期でもあるため散布の判断が難しいが、**普及性はある**との結果でした